



谷澤 政司 議員

### 将来へ 文化を守り 安心と活力ある高山 市をめざす

重症障がい児者を持つ親は、自分が亡きあと、この子はどうなるのか答えが無いまま悩んでいる

【問】障がい児者が増加しており、施設整備、生活介護、総合的窓口の設置、医療的なケアを行える総合施設など、新しい課題への対応を。

【答】今後、要望されている内容を踏まえながら市として行える支援について検討していきたい。

伝統構法木造建築物の保存活用のため、大工や左官などの技術継承への取り組み

【問】川東地区城下町を、新規に国の重要伝統的建造物群保存地区の選定への取り組みを。

【答】地域住民と協働して取り組みたい。

【問】「飛驒の匠」大工・左官の仕事が少なく廃業があり、歴史的木造建築物の保存活用が出来なくなる。技術継承への取り組みは。

【答】より多くの木造建築物の耐震化や維持保全を進めて、匠の技術を生かす場を提供していきたい。

【問】伝統構法木造建築物は実大実験で地震性能などに評価を得ているので、同建築物の推進を。

【答】同建築物の構造特性を踏まえた、耐震化マニュアルを作成して推進していく。

大地震や集中豪雨など想定外の災害対応

【問】新規作成のハザードマップは、各家庭で、あらゆる災害の防災意識向上に有効活用できるものが必要。

【答】地域住民の意見や経験を反映し、また、地域、家庭や学校などで災害時の危険個所や避難経路等について、平常時から有効活用できるものを作成し来春までに配布する。

【問】北山西側の桜町、八幡町、大新町3・4丁目から急傾斜地崩壊対策工事の早期実施の要望書が提出されているが。

【答】県では計画の検討をしている。市としても工事が実施されるよう県へ要望していく。



今春に完了する大新町地内の無電柱化事業



松山 篤夫 議員

### 山も水も美しい飛驒 高山を次世代へ！

清流を守る条例の制定について

【問】清流は私たちが守り、次の世代に引き継ぐべき大切な自然遺産である。仙台市の広瀬川は、「鮎がすむ清流」とも言われ観光客を惹きつけており、全国に先駆けて条例を制定して自然環境の保全に取り組んできた。また、高知県の四万十川は、県が条例を制定し、貴重な資源を守る努力をし、その結果「日本最後の清流」と云われている。高山市には荒城川、秋神川などの多くの清流がある。人と自然が共生する循環型の地域社会をつくるためにも、また観光資源として、市も「清流を守る条例」を制定するべきであると考え、市の見解は。

【答】清流を守り、次世代へ引き継ぐことは大変重要なことと考えているが、条例制定は考えていない。

男女共同参画社会の構築について

【問】市の「男女共同参画基本計画」は家庭の絆を大切にし、ともに思いやり、助け合う家庭を基本目標に掲げている。家庭生活における男女共同参画、子育て推進のためにも育児休暇の取得は大事なことである。女性の育児休暇取得は当たり前になりつつある一方で、男性の育児休暇の取得はまだまだという感を拭えないが、市の男性

職員の育児休暇取得の状況は。  
【答】平成26年度までに6人取得することを目標としてきたが、平成24年度末時点で6名に達した。今後とも子どもが生まれた時点でその職員に対して、育児休業取得を勧める等して、取得しやすい環境の整備に努める。

観光戦略について

【問】外国人観光客に高山の「和食文化」を楽しんでもらうためにもどのような戦略を考えているのか。

【答】地域の食をテーマにしたツアーを誘致する取り組みを始めており、郷土料理の魅力を楽しめるプログラムを着地型の旅行商品に組み込みたい。

